

事 業 報 告 書

令和6年度(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(1) 農作物共済関係

【引受概況】

水 稲

引 受 面 積：全引受方式に係る引受面積は、1,494,249.6aで前年産引受面積1,649,894.3aに対し、155,644.7aの減(90.6%)となった。

引 受 率：農林水産省発表の作付面積28,400haに対する引受率は、52.6%で収入保険と併せて94.4%となった。

引 受 収 量：半相殺方式・全相殺方式・地域インデックス方式の総引受取量は67,255,868kgで、平均実行単収は506kgとなった。

基 準 生 産 金 額 等：品質方式の基準生産金額は、90,930,609円となった。

基 準 生 産 金 額 等：半相殺方式・全相殺方式・地域インデックス方式の1kg当たりの平均は191円となった。

麦(令和6年産)

引 受 面 積：引受面積は342,359.1aで、前年産引受面積381,346.0aに対し、38,986.9aの減(89.8%)となった。

引 受 率：農林水産省発表の6年産作付面積8,746haに対する引受率は、39.1%で収入保険と併せて96.3%となった。

基 準 生 産 金 額 等：災害収入共済方式の基準生産金額は1,541,426,037円となった。

(引受)

年産	共済目的	引受方式	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持 共済掛金 (A) ± (B)
			人	a	円	円	円	円
6年産	水稻	地域インデックス方式	9,799	1,299,079.8	11,664,626,688	4,536,162		
		全相殺方式	539	124,705.2	971,658,191	1,409,106	5,516,554	11,647,464
		半相殺方式	376	60,298.8	206,782,907	96,192		
		品質方式	27	10,165.8	81,837,539	89,450		
7年産	麦	災害収入共済方式	延 484	342,359.1	1,377,694,927	28,229,946	5,647,532	33,877,478
			実 479					
		計	延 11,225	1,836,608.7	14,302,600,252	34,360,856	11,164,086	45,524,942
			実 10,930					
麦	災害収入共済方式	延 448	318,389.9	1,091,414,009	10,618,539	(納) 547,615	10,070,924	
		実 445						

水 稲

【被害概況】

6月下旬以降の天候不順により、一部地域においてイモチ病、イネごま葉枯病の被害が発生した。7月から8月にかけて、受粉障害の発生が多くなるとされる35°Cを超える日が続いたことで不稔もみが多く発生し、減収の要因となった。8月の台風10号の影響を受け、穂ずれや倒伏の被害が発生した。獣害に関しては、県下山間部においてイノシシ、シカ、サルによる踏み倒し及び食害が発生した。近年、減少していた獣害が、一昨年頃より増加傾向となっている。

【評価の概要】

評価については、半相殺方式および一筆全損特例、一筆半損特約の被害申告筆の現場確認を各支所で実施した。また半相殺方式以外の方式の分割評価等の見回り評価についても各支所で実施した。本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を8月26日(早期品種)、9月17日(中生・普通期品種)に実施した。

麦(令和6年産)

【被害概況】

11月上旬から中旬の降水量が平年より多くなったため、土壌が湿潤状態となり、発芽が抑制され生育不良となった。2月下旬以降も平年より降水量が多くなったため、排水対策を適切に実施しているほ場でも土壌が湿潤状態となり、根の生育が阻害され生育不良となった。4月16日に県東部で降ひょうがあり、茎折れ等の損傷を受け生育不良となった。4月中旬より高温多湿な気象条件が断続的に続いたため赤かび病が発生し、品質が低下した。獣害に関しては、山間部の一部ほ場でイノシシ、シカ、サルによる踏み倒し及び食害が発生した。

【評価の概要】

収穫皆無被害耕地については、127筆、3,354.2a確認した(災害収入共済方式で支払いと重複する農家があるため、一筆全損特例のみでの支払いは 3戸、427.0a)。本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を5月16日(大麦)、5月29日(小麦)に実施した。

(被害)令和6年産

共済目的	引受方式	被害組合員数 人	共 済 金 円	共 済 金 共 済 金額	
				%	
水稻	地域インデックス方式	157	14,820,634		0.13
	全相殺方式	10	566,865		0.06
	半相殺方式	12	195,075		0.09
	品質方式	1	104,414		0.13
麦	災害収入共済方式	234	117,942,854		8.56
計		414	133,629,842		0.93

令和5年産 全相殺方式(青色申告書等調査 事業開始3月から6月)

共済目的	引受方式	被害組合員数 人	共 済 金 円	共 済 金 共 済 金額	
				%	
水稻	全相殺方式	4	2,164,430		0.89

(支払)

共済目的	方式	支払月日	実支払 共済金 円	共済金支払財源					実支払 共済金 共済金
				保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円	その他 円	
水稻 (令和6年産) <small>(全相殺・品質・インデックス (一筆全損・一筆半損)</small>	半相殺	令和6年12月25日	195,075	0	11,647,464	69,258,203			
		令和6年12月25日	15,491,913						
麦	災害収入	令和6年12月25日	117,942,854	18,846,697	33,877,478				
水稻 (令和5年産) <small>(事業開始3月～6月)</small>	全相殺	令和6年9月27日	2,164,430	0		2,164,430			
計			135,794,272	18,846,697	45,524,942	71,422,633	0	0	100.0

(2)家畜共済関係

【引受概要】

引受戸数は死亡廃用共済で72戸、疾病傷害共済で97戸となった。引受頭数は死亡廃用共済の搾乳牛1,915頭、繁殖用雌牛1,461頭、育成乳牛633頭、育成・肥育牛20,708頭、育成・肥育馬6頭で合計24,723頭となり、共済金額合計は13,165,694,830円となった。疾病傷害共済においては、乳用牛2,290頭、肉用牛21,353頭、一般馬4頭で合計23,647頭となり、共済金額合計は640,399,885円となった。本年度の廃業は2戸、新規加入者は2戸となった。

(引受)

区分		項目	有資格頭數 頭	事業計画頭數 頭	引受頭數 頭	引受頭數 事業計画頭數 %	共済金額 円
死 廃 共 済	搾乳牛	1,844	2,022	1,915	94.7	563,441,120	
	繁殖用雌牛	1,500	1,583	1,461	92.3	686,863,310	
	育成乳牛 (子牛等)	465	641	626	97.7	141,410,330	
	育成・肥育牛 (子牛等)	20,918	20,979	20,385	97.2	11,773,030,870	
	繁殖用雌馬	0	0	0	-	0	
	育成・肥育馬	5	8	6	75.0	949,200	
	種豚	0	0	0	-	0	
	肉豚	1,470	0	0	-	0	
	計	26,202	25,233	24,723	98.0	13,165,694,830	
疾病 傷害 共済	乳用牛	2,309	2,323	2,290	98.6	80,467,359	
	肉用牛	22,418	20,910	21,353	102.1	559,851,004	
	一般馬	5	6	4	66.7	81,522	
	種豚	0	0	0	-	0	
	計	24,732	23,239	23,647	101.8	640,399,885	
合計		50,934	48,472	48,370	99.8		

区分		項目	徴収 共済掛金 円	納入保険料 円	交付金 円	手持 共済掛金 円
死 廃 共 済	搾乳牛	3,960,369				
	繁殖用雌牛	1,251,527				
	育成乳牛 (子牛等)	841,528				
	育成・肥育牛 (子牛等)	34,949,133				
	繁殖用雌馬	0				
	育成・肥育馬	87,507				
	種豚	0				
	肉豚	0				
	計	41,090,064				
疾病 傷害 共済	乳用牛	10,696,686				
	肉用牛	45,427,327				
	一般馬	10,631				
	種豚	0				
	計	56,134,644				
合計		97,224,708	0	95,907,181	193,131,889	

【事故概要】
(死廃事故)

死廃事故総頭数は296頭、支払共済金は70,817,563円となった。搾乳牛の死廃事故頭数は54頭、支払共済金は11,708,779円となった。繁殖用雌牛の死廃事故頭数は6頭、支払共済金は2,537,970円となった。育成乳牛の死廃事故頭数は16頭、支払共済金は757,765円となった。育成・肥育牛の死廃事故頭数は220頭、支払共済金は55,813,049円となった。前年度と比較して頭数、支払共済金共に77頭、22,059,416円の減少となった。死廃事故病類別の第1位は消化器病、第2位は新生子異常であり、呼吸器病が第3位であった。

(病傷事故)

病傷事故総件数は14,925件、支払共済金は148,908,962円となった。乳用牛の病傷事故件数は2,601件、支払共済金は34,250,826円となった。肉用牛の病傷事故件数は12,321件、支払共済金は114,646,652円となった。育成・肥育馬の病傷事故件数は3件、支払共済金は11,484円となった。前年度と比較して頭数、支払共済金はともに62頭、9,893,363円の増加となった。病傷事故病類別の第1位は呼吸器病、第2位は消化器病であり、生殖器病が第3位であった。

(事故)

項目 区分	死 廃 事 故			
	死亡頭數 頭	廃用頭數 頭	総頭數 頭	支 払 共 済 金 円
搾 乳 牛	26	28	54	11,708,779
繁殖用雌牛	4	2	6	2,537,970
育 成 乳 牛 (子 牛 等)	2 14	0	16	757,765
育成・肥育牛 (子 牛 等)	82 80	58	220	55,813,049
繁殖用雌馬	0	0	0	0
育成・肥育馬	0	0	0	0
種 豚	0	0	0	0
肉 豚	0	0	0	0
計	208	88	296	70,817,563

項目 区分	疾 病 傷 害 共 濟	
	件 数 件	支 払 共 済 金 円
乳 用 牛	2,601	34,250,826
肉 用 牛	12,321	114,646,652
一 般 馬	3	11,484
種 豚	0	0
計	14,925	148,908,962

(診療所)

診療所名	職員数 人	管 内			診 療 件 数		損 害 防 止 事 業		
		有資格 頭	加頭	入 数 頭	共済事故 頭	事故外 件	一般 頭(回)	特損 頭(回)	経費概算 円
家畜診療所	15	26,202	23,647	13,507	35,734	6,725	0		147,884

(3) 果樹共済関係

【引受概況】

ぶどう

引受面積：引受面積は78.6aで、前年産と同じとなった。

引受率：農林水産省発表の結果樹面積(令和6年産)46haに対する引受率は収入保険と併せて18.8%となった。

標準収穫量：標準収穫量は9,751kgで前年産標準収穫量12,399kgに対し78.6%で、平均単位当たり標準収穫量は1,241kg、国から県への通知単収900kgに対して137.9%となった。標準収穫金額は8,621,674円となり、平均単位当たり価格は884円となった。

なし

引受面積：引受面積は179.8aで、前年産と同じとなった。

引受率：農林水産省発表の結果樹面積(令和6年産)40haに対する引受率は収入保険と併せて55.2%となった。

標準収穫量：標準収穫量は24,318kgで前年産標準収穫量24,171kgに対し100.6%で、平均単位当たり標準収穫量は1,353kg、県通知単収1,290kgに対して104.9%となった。標準収穫金額は14,121,500円となり、平均単位当たり価格は581円となった。

(引受) 収穫共済・半相殺減収総合一般方式

年 産	共済目的	組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持共済掛金 (A) ± (B) 円
6 年 産	ぶどう	3	78.6	7,282,000	98,288	(交)	315,924
	なし	7	179.8	9,237,000	175,570		
	計	10		16,519,000	273,858	42,066	
7 年 産	ぶどう	3	78.6	6,034,000	76,765	(交)	305,158
	なし	7	179.8	9,877,000	179,356		
	計	10	258.4	15,911,000	256,121	49,037	

ア ぶどう

【被害概況】

5月から6月は適度な降水量と多照に経過したことから初期の果粒肥大は良好であったが、7月下旬から8月中旬の降水量が少なく、高温に推移した影響で小粒傾向になり、一部園地で日焼け果や着色不良が目立った。台風10号に伴う8月下旬の降雨により裂果が発生した。病害はうどんこ病、べと病の発生がやや多く、虫害ではカメムシ類の多発による被害が見られた。

【評価の概要】

農家申告抜取調査を8月6日に1園地で行った。本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を7月25日に行った。

イなし

【被害概況】

5月から6月は平年並みの気温で、適度に降雨もあり順調に生育し、果実は肥大した。6月中旬以降、最高気温が30℃を超える日が出現し、高温障害の影響により豊水でみつ症が発生した。6月中旬までの降雨日が少なく梅雨入り後も晴れ間に防除対応ができたことから黒星病の発生は少なかった。虫害はカメムシ類については防虫網を設置されている園が多く被害は抑えられたが、一部の園でハダニによる被害があった。

【評価の概要】

農家申告抜取調査を9月6日に1園地で行った。本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を7月25日に行った。

(被害)

共済目的	被害組合員数 人	共済金 円	共済金 共済金額 %	
			共済金額	%
ぶどう	1	134,920		1.85
なし	1	67,500		0.73
計	2	202,420		1.23

(支払)

共済目的	支払月日	実支払 共済金 円	共済金支払財源					実支払 共済金 共済金 %
			保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円	その他 円	
ぶどう	令和7年2月12日	134,920	0	0	0	0	0	
なし	令和7年2月12日	67,500	0	202,420	0	0	0	
計		202,420	0	202,420	0	0	0	100.0

(4) 畑作物共済関係

【引受概況】

大豆〔半相殺方式、全相殺方式〕・小豆〔半相殺方式〕

引受面積

大豆：引受面積は229,376.7aで前年産引受面積255,821.1aに対し、26,444.4aの減(89.7%)となった。

小豆：引受面積は224.2aで前年産引受面積413.5aに対し、189.3aの減(54.2%)となった。

引受率

大豆：農林水産省発表の作付面積7,350haに対する引受率は31.2%で収入保険と併せて80.5%となった。

小豆：農林水産省発表の作付面積108haに対する引受率は2.1%で収入保険と併せて22.6%となった。

引受収量

大豆：総引受収量 3,015,023kgで、平均実行単収は148kgで県指示単収131kgに対し、113.0%の実行率となった。

小豆：総引受収量 1,529kgで、平均実行単収は97kgで県指示単収90kgに対し、107.8%の実行率となった。

単位当たり

共済金額 大豆：1kg当たりの平均254円で、前年産の234円に対して20円の増となった。

大豆1類

:交付農業者 320円 対前年産 交付農業者：315円

:交付農業者以外 152円 対前年産 交付農業者以外：149円

:種子 516円 対前年産 種子: 504円

大豆2類：896円 対前年産：928円

大豆3類：365円 対前年産：375円

小豆：1kg当たりの平均849円で、前年産942円に対して93円の減となった。

(引受)

年 産	項目 区分	組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持共済掛金 (A) ± (B) 円
令 和 6 年 産	半相殺方式 (大豆)	187	35,021.9	142,509,265	4,745,938		
	半相殺方式 (小豆)	5	224.2	1,298,121	42,379		
	全相殺方式 (大豆)	250	194,354.8	623,376,368	15,493,179		
	計	延 442	229,600.9	767,183,754	20,281,496	15,902,051	36,183,547
		実 390					

【被害概況】

大豆

6月下旬～7月前半に播種し出芽不良が見られたほ場では、湿害の影響により生育が遅れた。しかし、梅雨明け以降は高温多照となり、生育は回復傾向となった。7月下旬以降に播種したほ場では、主茎長が短く、生育量も小さく、播種時期により生育の差が大きくなつた。7月下旬～10月は概ね高温少雨で推移し、干ばつ傾向が続いたため、一部ほ場では株枯れなどの干ばつによる被害が発生した。病害虫は、ハスモンヨトウやタバコガ類の発生が多く、葉や莢の食害が見られ、葉脈や葉柄を残して葉を食べ尽くされたほ場もあった。また、吸実性カムシ類の発生も多く、吸汁害による被害粒や減収が見られた。10月中旬頃から葉の黄化が始まったが、7月下旬～10月は気温が平年より高かったことから、落葉が平年より遅れた。作柄は、播種遅れと干ばつの影響で生育量の小さいほ場が多く、子実肥大期も干ばつ傾向で推移し、ハスモンヨトウやタバコガ類、吸実性カムシ類による被害の発生が多く、青立ちも多くみられ、収量・品質は平年と比べて不良であった。

小豆

発芽や初期生育は順調であったが、大豆と同様に干ばつの影響を受け、着莢数の大幅な減少、青立ちが発生した。収穫期になっても莢が褐色にならず、収穫作業に遅れが生じた。収穫した莢についても、変形粒や小粒が多く収量・品質ともに不良であった。

【評価の概要】

大豆

半相殺大豆の悉皆調査は10月28日～12月20日にかけて837筆。全相殺大豆と合わせてのすき込み・転作は405筆、収穫皆無は214筆、発芽不能は53筆。県下作況見回り調査は10月30日・11月21日に実施した。

小豆

悉皆調査を11月18日～11月26日にかけて 7筆行った。

(被害)

区分	項目	被害組合員数 人	共済金 円	共済金 共済金額 %
半相殺方式(大豆)		101	34,292,198	24.06
半相殺方式(小豆)		4	860,037	66.25
全相殺方式(大豆)		217	207,187,512	33.24
計	延 実	322 298	242,339,747	31.59

(支払)

区分	項目	支払月日	共済金支払財源						実支払 共済金 共済金 %
			実支払 共済金 円	保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円	その他 円	
半相殺方式 (大豆)		令和7年3月12日	34,292,198						
半相殺方式 (小豆)		令和7年3月12日	860,037						
全相殺方式 (大豆)		令和7年5月7日	207,187,512						
計			242,339,747	174,935,334	36,183,547	17,222,182	13,998,684	0	100.0

(5)園芸施設共済関係

【引受概況】

引受棟数：前年度引受棟数3,002棟に対し、3,189棟で前年対比106.2%となった。

共済金額：前年度引受共済金額4,719,490千円に対し、5,100,003千円で前年対比108.1%となった。

共済掛金：共済掛金総額は45,645,542円で、このうち国庫負担額が20,120,936円、保険料は及び保険料 9,610,178円となった。

(引受)

施設区分	項目	組合員数人	引受棟数棟	引受面積m ²	共済価額千円	共済金額千円
ガラス室I類 (木造)		1	2	912	7,687	6,149
ガラス室II類 (鉄骨)		37	56	83,522	1,190,420	1,141,571
プラスチックハウスI類 (木竹)		3	5	1,552	3,455	3,185
プラスチックハウスII類 (パイプ)		1,195	2,912	813,127	3,078,777	2,742,460
プラスチックハウスIII類 (鉄骨下)		32	39	34,336	182,525	165,215
プラスチックハウスIV類(甲) (鉄骨中)		18	23	17,022	217,594	196,835
プラスチックハウスIV類(乙) (鉄骨中)		31	50	57,856	689,399	589,058
プラスチックハウスV類 (鉄骨上)		17	26	13,580	209,288	182,838
プラスチックハウスVI類 (雨よけ施設等)		22	58	18,024	56,989	56,241
プラスチックハウスVII類 (多目的ネットハウス)		11	18	45,966	17,689	16,451
計	延	1,367	3,189	1,085,897	5,653,823	5,100,003
	実	1,106				

施設区分	項目	共済掛金A円	農家負担掛金B円	保険料C円	交付金D円	手持掛金E円
ガラス室I類 (木造)		8,545	4,303	552	3,690	7,993
ガラス室II類 (鉄骨)		1,705,618	996,055	50,332	659,231	1,655,286
プラスチックハウスI類 (木竹)		22,318	13,348	1,337	7,633	20,981
プラスチックハウスII類 (パイプ)		40,428,104	22,583,124	9,282,331	8,562,649	31,145,773
プラスチックハウスIII類 (鉄骨下)		1,064,843	589,086	172,688	303,069	892,155
プラスチックハウスIV類(甲) (鉄骨中)		1,117,084	617,709	25,569	473,806	1,091,515
プラスチックハウスIV類(乙) (鉄骨中)		858,076	453,800	25,263	379,013	832,813
プラスチックハウスV類 (鉄骨上)		113,127	70,236	5,210	37,681	107,917
プラスチックハウスVI類 (雨よけ施設等)		198,075	120,248	44,353	33,474	153,722
プラスチックハウスVII類 (多目的ネットハウス)		129,752	76,697	2,543	50,512	127,209
計		45,645,542	25,524,606	9,610,178	10,510,758	36,035,364

【被害概況及び評価の概要】

令和6年4月16日の降ひょうによりパイプハウス等に被害が発生した(被害58棟、支払共済金10,841,918円)。また、突風および施設内農作物の病害を含め、188棟(前年対比175.7%)、支払共済金21,321,584円(前年対比268.4%)となった。

(被害)

施設区分	項目	組合員数人	棟数棟	被害額円	附帯施設数基
ガラス室I類 (木造)		0	0	0	—
ガラス室II類 (鉄骨)		2	2	1,771,298	—
プラスチックハウスI類 (木竹)		0	0	0	—
プラスチックハウスII類 (パイプ)		104	173	12,039,772	—
プラスチックハウスIII類 (鉄骨下)		2	2	51,520	—
プラスチックハウスIV類(甲) (鉄骨中)		3	4	1,194,748	—
プラスチックハウスIV類(乙) (鉄骨中)		3	4	7,881,694	—
プラスチックハウスV類 (鉄骨上)		1	2	882,618	—
プラスチックハウスVI類 (雨よけ施設等)		1	1	113,395	—
プラスチックハウスVII類 (多目的ネットハウス)		0	0	0	—
計	延実	116 113	188	23,935,045	—

施設区分	項目	支払共済金円	保険金円	支払共済金共済金額%
ガラス室I類 (木造)		0	0	—
ガラス室II類 (鉄骨)		1,417,038	0	0.12
プラスチックハウスI類 (木竹)		0	0	—
プラスチックハウスII類 (パイプ)		10,303,968	1,087,361	0.38
プラスチックハウスIII類 (鉄骨下)		51,518	0	0.03
プラスチックハウスIV類(甲) (鉄骨中)		1,186,289	0	0.60
プラスチックハウスIV類(乙) (鉄骨中)		7,565,961	0	1.28
プラスチックハウスV類 (鉄骨上)		706,094	0	—
プラスチックハウスVI類 (雨よけ施設等)		90,716	10,601	0.16
プラスチックハウスVII類 (多目的ネットハウス)		0	0	—
計		21,321,584	1,097,962	0.42
年間超過損害保険金		0	0	—
合計		21,321,584	1,097,962	0.42

(支払)

区分	項目	支払年月日	実支払共済金円	共済金支払財源	
				保険金円	手持共済掛金充当額円
令和6年度		令和6年5月25日～令和7年4月25日	21,321,584	1,097,962	20,223,622

区分	項目	共済金支払財源			実支払共済金共済金%
		法定積立金充当額円	特別積立金充当額円	その他円	
令和6年度		0	0	0	100.0

(6) 損害防止状況

ア 農作物共済

農作物共済事業の損害防止については、下記のとおり獣害による被害防止に努めた。

獣害の防止対策については、関係機関と連携して取り組んでいる。防護柵の増設等により被害の軽減は認められるものの、サル、シカ、イノシシ等による農作物への被害が見られており、減収・品質低下・耕作放棄などの問題が発生している。

これらの野生動物から農作物被害を未然に防止するため、農業組合等が実施する獣害対策への支援を行っている。助成対象としては4農業組合等が対象となり256,600円を交付した。

イ 家畜共済

共済事故を未然予防、損害拡大抑制により畜産農家の経営安定を図るため、組合独自の一般損害防止事業を実施している。家畜診療所では多種多様化する加入者の損害を分析し、ニーズにあった損害防止を行っている。令和6年度の一般損害防止費は147,884円であり、飼養管理指導を6,725頭を行い、講習会や検討会を14回実施した。

実施種目	対象頭数・回数 頭(回)	経 費 円	摘要
特定損害防止	0	0	
一般損害防止	予防衛生措置	0	0
	飼養管理指導	6,725	147,884 乳用牛、肉用繁殖牛の繁殖検診ならびに肉用牛の生産性向上対策を実施。
	講習会・検討会	14	0 HACCP会議、牧場コンサルタント獣医師との検討会、農家ごとの飼養管理検討会等を実施。

(7)任意共済関係

①建物共済関係

【事業概要】

建物共済については「未来へつなぐ」サポート運動と連携し、役職員一丸となって継続加入の推進および臨時費用特約、小損害実損填補特約の加入推進により補償の充実を図った。また、未継続者を出さないために自動継続特約の推進を行った。農家建物46,816棟(前年対比97.9%)、農家建物共済金額65,982,215万円(前年対比97.8%)の引受結果となった。

建物共済の事故については、令和6年1月の雪害と、令和6年4月のひょう害による棟数は199棟(全体の59.6%)、支払共済金77,327,231円(全体の80.1%)となった。その他主な事故としては、落雷、突風による風害などの被害があった。

ア 引受

(a) 農家建物共済引受状況

区分	加入棟数 棟	共済金額 万円	共 濟 掛 金			一棟当たり 平均 共済金額 万円	再共済掛金 及び 任意保険料 円	再共済手数料 及び 保険手数料 円
			純共済掛金 円	賦課金 円	計 円			
火 災	33,389	49,963,033	192,599,064	157,247,232	349,846,296	1,496	再共済割合 地震部分 50% 地震以外 30%	再共済手数料 掛金率における 賦課金割合 － 4.5%
総 合	13,427	16,019,182	270,695,884	92,455,331	363,151,215	1,193		
合 計	46,816	65,982,215	463,294,948	249,702,563	712,997,511	1,409	251,246,279	73,046,172

(b) 用途別引受状況

用 途	棟 数 棟	共済金額 万円
住 宅	30,522	50,086,474
納 屋・物置・ 農 作 業 場 等	7,223	3,933,199
倉 庫・土 蔵	2,200	1,252,354
公 民 館・集 会 所	1,965	3,475,970
そ の 他	4,906	7,234,218
合 計	46,816	65,982,215

(c) 収容農産物補償特約引受状況

【事業概要】

収容農産物補償特約は、新規引受を実施しておらず、前年より加入口数等が減る結果となった。被害申告はなかった。

区分	加入口数 口	加入総支払 限度額 万円	共 濟 掛 金			一口当たり 平均支払 限度額 万円	再共済掛金 及び 任意保険料 円	再共済手数料 及び 保険手数料 円
			純共済掛金 円	賦課金 円	計 円			
総合	56	5,600	117,600	50,400	168,000	100	再共済割合 30%	再共済手数料 25.50%
合計	56	5,600	117,600	50,400	168,000	100	50,400	12,844

イ 事故

(a) 農家建物共済事故状況

区分	事故棟数 棟	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び 任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
火災	火 災	7	3,264,392	979,313	0.00065
	拡張担保	49	5,227,666	1,568,283	0.00105
	計	56	49,963,033	8,492,058	0.00170
総合	自然災害	238	81,949,094	24,584,623	0.05116
	火 災	2	370,195	111,058	0.00023
	拡張担保	38	5,759,435	1,727,814	0.00360
	計	278	16,019,182	88,078,724	0.05498
合 計		334	65,982,215	96,570,782	0.01464

(b) 農家建物共済原因別事故発生状況

原因別	事故棟数 棟	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び 任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
類焼	3		240,926	72,277	0.00004
落雷	48		5,403,747	1,621,106	0.00082
火災	5		2,289,950	686,981	0.00035
風害(突風等)	33		4,185,248	1,255,559	0.00063
ひょう害	145		66,987,148	20,096,082	0.01015
泥棒による毀損	9		2,208,128	662,435	0.00033
破裂・爆発	1		1,103,711	331,113	0.00017
土砂崩れ	1		95,433	28,629	0.00001
車両の当て逃げ等	2		108,692	32,607	0.00002
第三者行為	2		89,285	26,785	0.00001
台風	4		259,508	77,851	0.00004
雪害	54		10,340,083	3,102,000	0.00157
水道管凍結	1		27,538	8,261	0.00000
水害(大雨・豪雨)	1		81,674	24,502	0.00001
建物内部の車両衝突	5		472,886	141,863	0.00007
給排水設備	2		1,207,324	362,197	0.00018
外部からの物体の落下等	18		1,469,501	440,843	0.00022
合計	334	65,982,215	96,570,782	28,971,091	0.01464

(c) 収容農産物補償特約事故状況

区分	事故口数 口	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び 任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
総合	自然災害	0		0	0
	火災	0		0	0
	拡張担保	0		0	0
	計	0		0	0
合計	0	5,600	0	0	0.00000

(d) 収容農産物補償特約事故発生状況

原因別	事故口数 口	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び 任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
	0	0	0	0	0.00000
合計	0	5,600	0	0	-

② 農機具損害共済関係

【事業概要】

農機具損害共済は、クロスコンプライアンス等により引受台数8,996台(前年対比100.8%)、引受共済金額3,050,837万円(前年対比103.9%)と共に金額、台数ともに増加した。

農機具損害共済の事故については、事故台数266台(前年対比103.5%)、支払共済金は84,945,300円(前年対比120.4%)と前年より増加した。

ア 引受

項目	加入台数 台	加入 共済金額 万円	共済掛金			1台当たり 共済金額 万円
			純共済掛金 円	事務費賦課金 円	計 円	
損害共済	8,996	3,050,837	105,276,540	32,155,144	137,431,684	339
内訳	火災共済	799	155,757	1,566,205	846,880	2,413,085
	総合共済 (普通物件)	8,146	2,890,803	103,197,143	31,192,206	134,389,349
	総合共済 (特殊物件)	51	4,277	513,192	116,058	629,250
						84

イ 事故

(a) 共済金支払状況

項目	事故台数 台	加入 共済金額 (イ) 万円	支払共済金			被害率 (ロ)/(イ) %
			火災 円	接触等 その他の 円	計 (ロ) 円	
損害共済		3,050,837	0	84,945,300	84,945,300	0.2784
内訳	火災共済	1	155,757	0	53,403	53,403
	総合共済 (普通物件)	261	2,890,803	0	83,436,128	83,436,128
	総合共済 (特殊物件)	4	4,277	0	1,455,769	1,455,769
						3.4037

(b) 原因別事故発生状況

項目 原因別	事故台数 台	加入 共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	被害率 (ロ)/(イ) %	備考
衝突	25		11,495,507	0.0377	
接触	174		37,121,767	0.1217	
墜落	3		1,533,764	0.0050	
転覆	13		21,368,900	0.0700	
異物の巻き込み	30		10,392,424	0.0341	
物の落下・飛来	15		1,079,886	0.0035	
風害	1		64,124	0.0002	
雪害	1		1,470,864	0.0048	
鳥獣害	1		46,259	0.0002	
落雷	1		225,975	0.0007	
第三者行為	2		145,830	0.0005	
計	266	3,050,837	84,945,300	0.2784	

③ 保管中農産物補償共済関係

【事業概要】

保管中農産物補償共済は、近年、自然災害が多発しているため加入口数等が増加している。被害申告はなかった。

ア 引受

(a) 引受状況

区分	加入口数 口	加入総支払 限度額 万円	共 濟 掛 金			保険料 円
			純保険料 円	賦課金 円	計 円	
Aタイプ	43	4,300	75,250	32,250	107,500	80,066
Bタイプ	9	900	40,950	17,550	58,500	43,578
合 計	52	5,200	116,200	49,800	166,000	123,644

(b) 種類別引受状況

用 途	口 数	加入支払限度額 万円
米	52	5,200
合 計	52	5,200

イ 事故

(a) 事故状況

区 分	事故口数 口	加入総支払限度額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
Aタイプ	0	0	0	0	-
Bタイプ	0	0	0	0	-
合 計	0	0	0	0	-